

事務事業評価表（一般事業）

1 事業名	統計調査事務	コード	165107
-------	--------	-----	--------

2 担当部課	部等 企画政策部	課等 秘書広報課	作成者 小松 茂
--------	----------	----------	----------

3 事業概要	目的体系	基本目標	総合計画の推進に向けて		
		政策	総合計画の推進に向けて	施策	その他
		予算科目	統計調査事務費	業務委託	なし（直営）
		実施義務	あり（義務的・標準的的事业）	国県補助	なし
		根拠法令	なし		

●事業の内容（D0）

4 事業の概要等		*対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）		
事業の概要 （簡潔に）	統計グラフコンクールの実施及び統計調査結果の公表に係る事業			
目的	対象者	市民、事業所		
	意図	統計思想の普及		

5 事業の実施内容		*30年度に、いつ・どこで・誰が・何を・どのように行ったか、という具体的な内容		
<ul style="list-style-type: none"> 統計調査関係者の各種表彰推薦事務 第49回岡谷市統計グラフコンクールの実施、統計調査結果の公開を通じて統計思想の普及と啓蒙に努めた。 				
前年度の課題への対応	<ul style="list-style-type: none"> 統計グラフコンクールの入選作品を広報おかや、ホームページ、行政チャンネルで周知した。 			

6 指標の達成状況		*活動指標：この事業の規模、成果指標：この事業によって得られる住民の満足度			
区分	28年度	29年度	30年度	31年度（予算）	
① 活動指標（指標名）	講習会開催回数			単位	回
	実績値	1	1	1	
	*指標の説明	統計グラフコンクール書き方講習会の開催回数			
② 成果指標（指標名）	応募点数			単位	点
	目標値	49	52	53	50
	実績値	38	38	60	
	達成度	77.6%	73.1%	113.2%	
	*指標の説明	統計グラフコンクールの応募点数			
*目標値の設定方法の説明	過去5年の実績値の平均値				

7 ア) コストの推移

* この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）

[単位：円]

区分	28年度	29年度	30年度	31年度(予算)
① 直接事業費	436,074	427,167	429,179	450,000
経常経費	436,074	427,167	429,179	450,000
臨時的経費	0	0	0	0
* 臨時的経費の説明	臨時職員賃金、統計研修参加費用等			
区分	28年度	29年度	30年度	31年度(予算)
② 人件費	1,040,000	1,040,000	1,040,000	1,040,000
正規職員の人数(人)	0.13	0.13	0.13	0.13
③ 合計コスト(①+②)	1,476,074	1,467,167	1,469,179	1,490,000
前年度比		99.4%	100.1%	101.4%
財源	1,473,634	1,466,677	1,457,139	1,452,000
一般財源				
内訳	2,440	490	12,040	38,000
特定財源				
* 特定財源の説明	統計書籍等の頒布収入			
④ 活動一単位あたりコスト	1,476,074	1,467,167	1,469,179	
前年度比		99.4%	100.1%	
⑤ コストに関する補足説明				

イ) 補助金負担金の状況

[単位：件、円、%]

補助金負担金名	28年度	29年度	30年度	31年度(予算)
	件数			
	金額			
	件数			
	金額			
	件数			
	金額			
	件数			
	金額			
	件数			
	金額			
ア)の①に含まれる負担金等合計金額及び割合	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%

* 行が足りない場合は追加してください

●事業の評価(CHECK)

8 妥当性評価

* 妥当性=行政がこの事業を行う必要性はあるか。

妥当性

高い

評価項目	はい	いいえ
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与すべき重要な分野である。	1	
② 民間(企業、NPO、市民団体等)へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。	1	
③ 民間(企業、NPO、市民団体等)が行うサービスと類似・競合していない。	1	
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。	1	
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。	1	

9 有効性評価

* 有効性=成果指標(項目7/住民の満足度)は向上しているか。

有効性

高い

評価項目	はい	いいえ
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。	1	
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、今年度の事業内容に反映した。	1	
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。	1	
④ この事業の利用者が増加した。	1	
成果指標の実績値 前年度比	157.9%	
⑤ 年度当初に期待した成果が得られた。	1	
成果指標の目標値 達成度	113.2%	

●改善の内容 (ACTION)

10 具体的な課題と改善

課題	<p>(少ない費用で効率的に事業を行い、市民サービスを向上させる上で、現在課題になっていること)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統計調査について馴染みがなく、市民の関心が薄れていることが課題である。 ・統計グラフコンクールの中学生部門、パソコン部門について、昨年応募が無かったため、講習会などにより応募の拡充が必要。 	
	改善方法	<p>(上記の課題をふまえて30年度以降に実施する、具体的な改善の内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統計調査結果を利活用しやすい形式で公開するなど（オープンデータ）、調査結果の有効活用に努める。 ・統計グラフコンクールについては、学校教育との連携により応募点数の増に努め、統計思想の普及を図る。
		改善開始時期

●次年度の計画 (PLAN)

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による31年度の優先度 *H29年度施策評価表より転記すること	
-----------	--------	---	--